

「今後の日本リージョンを考える」～ ITC の現状分析～

2016.6.22

「今後の日本リージョンを考える」ということは、即ち ITC の変遷や現状を識り、それを分析することによって「今後の ITC を考える」ことに繋がるものと考えます。

≪ ITC の現状 ≫

1. マスターマニュアル記述の変遷

【トーストミストレス時の教育マニュアル改訂版(1985)より】

ITC は次の機会を与える

- ①指導技術を向上させる
- ②聴き手及び話し手としての伝達能力を高める
- ③効果的な組織運営方法を学ぶ
- ④自信をつけることにより自己改善を成し遂げる
- ⑤自分自身、従事している職業、地域社会に関する認識を深める
- ⑥国際非営利教育組織に参加することにより学習を継続させる

【トレーニング イン コミュニケーションに変更時の M.M.(1990)によると】

- ① ～④と⑥は同じで次の 2 項目が追加される。
 - ・協力的な雰囲気の中での実践
 - ・グループおよび個人の活動の評価が得られる
- ⑤は、「より高度な実績と地域社会での認知を得る」となっている。これは「自分自身が認識を深めていく」としていたトーストミストレス時代に、自身の実績を積むと共に社会での認知という外部へのアピールが付加されている。

【最新版の M.M.(2004)には、この記載はない】

会員にとって以下の点で役立つ(としている)

- ① 威厳と信念をもってコミュニケーションする
- ② 聴く能力を高める
- ③ 人間関係におけるコミュニケーションの重要性を理解し、集団の中の力関係に関わる多くの要素を認識する
- ④ 会合の運営方法を学ぶ
- ⑤ 組織運営の方法を研究し、実践する
- ⑥ 潜在能力を開発する
- ⑦ クラブ外での行動の質を高める

と、難解な表現に推移している。

2. その他の変遷について

※ディビジョンの分け方

6 つのディビジョン → 4 つのディビジョン(1994)

したがって、ITC 副会長も 6 名から 4 名となった。

4 つのディビジョンの分割線の設定が変更(2011)

※国際役員任期： 1 年 → 2 年(2005)

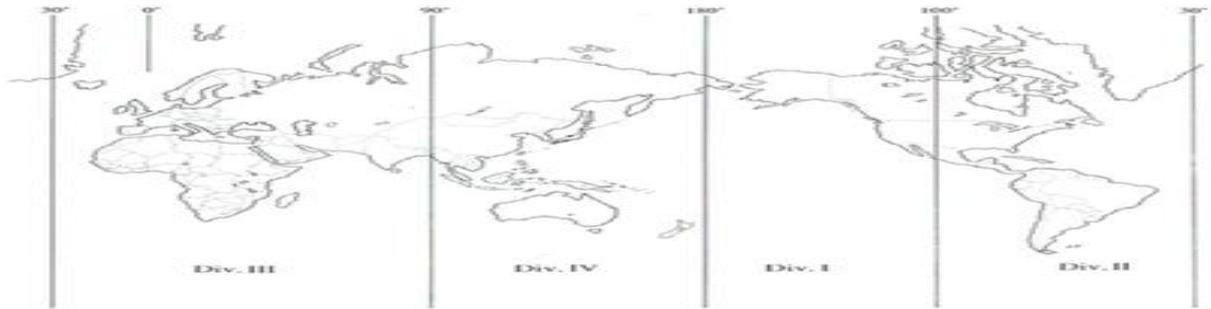
※国際大会の開催： 年次 → 2 年に 1 回(隔年)

※カウンスルレベル：必須 → 選択制

※無所属会員(クラブに所属していない一会員)：なし→あり

※サイバークラブ(対面ではないが、ネット上で例会を開催するクラブ)：なし→あり 2

3. ITC ディビジョン分割線



4. ITC ディビジョン別一覧 (2 段目カウンスル数・クラブ数・会員数) 2016.2 末

DIV. I	DIV. II	DIV. III	DIV. IV
Golden West Region 2Councils 8Clubs 49	Blue Ridge Region 3Councils 17Clubs 94	Europe92 Region 2Councils 13Clubs230	Australia Region 3Councils 13Clubs 131
North West Region 3Councils 9Clubs 50	Heart of America Region 無所属クラブ 5Clubs 24	Great Britain Region 2Councils 4Clubs 42	Japan Region 8Councils 75Clubs1169
Sierra Pacific Region 3Councils 9Clubs 49	Northeast Region 4Councils 12Clubs 78	Iceland Region 2Councils 7Clubs 88	New Zealand Region 3Councils 10Clubs 124
無所属会員 9	38	6	3

以上、リージョンから送られた統計や資料を読み取って考えられることは、

- ◆カウンスルを自由選択にしたことにより、今までクラブ・カウンスル・リージョン・国際という組織構成が崩れ、あまりにもリージョンの規模が小さくなり、理念に沿った学習効果が得られにくく、且つ組織力も弱体化してきたのではないか。
- ◆会則の見直し、ディビジョンの再編成が急務である。
- ◇日本リージョンにおいては、クラブ・カウンスル・リージョンという基盤の構成がしっかりとできている。専用の事務局も保有し、役割担当者の負担が大きいと思われるが、そのお陰で会員はたくさんの恩恵を受けている。
- ◇会員の高齢化、減少問題は最重要課題である。この課題を無視しては、日本リージョンの将来(ひいては ITC の将来)は見通しが立たない。
- ◇私たちは、創設者の思いに再度立ち返り、ITC の理念(主旨)に沿って、自己啓発に邁進し、社会への貢献に繋げていきたいと思う。

今こそ、日本リージョンは ITC を牽引していくべき時期にきているのではないのでしょうか？

作成：米子クラブ第 31 期プログラム・教育委員会 秦野順子

参考：トーストミストレス M.M.

ITC M.M.(旧版)・ITC M.M.(新版)

小菅あけみ ITC 副会長 Div.IV よりの資料

坂口正子 (大阪クラブ) 作成「ITC80 年の歩み」